

病院の方向性を考える「行動計画発表会」

院長 福永 秀敏

南風病院では毎年、4月の最初の土曜日に、県民交流センターで「行動計画発表会」を開催してきた。この発表会の趣旨を「その年の病院の方向性を共有し、団結力を高め、そして各々が決意表明を行う場」と位置付けている。2017年度は4月1日が土曜日となっていたので、午前中が辞令交付式（入職式）で、午後からの開催となった。今年は桜の開花が例年より遅かったため、まだ蕾の状態にもかかわらず、センターの前庭ではさまざまなグループが花見の宴を開いていた。

今年度はメディカルグループの発表は、時間の関係もありパネルに変更したのであるが、どこのグループも斬新なアイデアでわかりやすく工夫した展示となっていた。

13時半の開催時刻には、当直者などを除いてほぼ全員の病院スタッフが参加しており、資料では医師54人を含む総勢400人近くが参加してくれたようである。

理事長は今年度の行動指針を、2016年度のBe smart Be activeの副題として、「可能性にとことんチャレンジしよう」を付け加えておられた。

私は2017年度の重要テーマを①黒字化（健全経営）、②北部地域（上町・吉野地区など）への展開、③将来構想とし経営目標を病院全体の医業利益を3%に、全科の収入目標を10%UPとすることを提案した。

そのあと事務長の行動計画、個別経営課題の説明と続き行動計画発表会となった。

前半の内科系の司会を新原副院長が、後半の外科系を川内副院長がそれぞれ担当した。各部門の部長がそれぞれ5分間の発表だったが、手際よくまとめてくれていた。

16時半過ぎに終了し、新入職者が舞台上上がり横に整列した後、代表者が決意表明を行った。若い力の息吹を感じることができたことも大きな収穫だった。

そのあと私の「決意表明」となり、全体のまとめを述べることにした。

第一番目には、各診療科が困難な課題に対して真面目に一生懸命に取り組んでいこうとする姿勢が感じられたこと、二番目にはそれぞれの診療科が独自で、厳しい条件の中でも収益の10%アップに向けて頑張っていきたいという意志表明をしてくれたこと、そして最後に南風病院は個性的でありながらも相手を思いやり、みんなの話し合いで合意点を求め、決まった結果には従って行動できる集団であることを挙げた。

この日の朝の新入職者の研修会で述べたことだったが、「これからの病院が生き残っていく条件」として、「早く組織改革が行えるか、自分自身を変化させることができるか、職員が一丸となりチーム化できるか」が問われている。

現在、どこの病院も厳しい状況にある。道を拓けるのは、みんなの力を結集できるかどうかである。

Nanpuh Hospital